

報増の程度より起る労働者の生活の壓迫。一面企業家が巨利を博し生活の奢り極むルノ状ハ甚ク労働者をシテ反感嫉視ノ念ヲ懷カシメカクルニ社会問題ニ關スル思想言論界ノ論議ハ蓋シ労働者をシテ覺醒セシムル所アリ更ニ大正八年華社ニ關カシタル國際労働會議ハ我國労働者を刺戟スル所缺カラス之考各種ノ事情ハ相侵テ労働團體

設立ノ機運ヲ促進セシムルニ至レリ

## (二) 労働團體ノ數的考察

我國ノ労働團體ハ明治四十四年前ニ在リテ約四十ニ過キサリニカ爾後逐年其ノ數ヲ増シ大正七年末ニ於テハ「百〇七」ト爲リ大正八年末ニ至リテハ一躍「百八十七」ニ増シ更ニ大正九年末ニハ「二百七十三」ニ進ミ大正十年末ニ及テハ「三百」ニ達シ前年ニ比シ